

平成20年度課題別検討会

会員・会費制度ワーキング

REPORT

2009年3月

東京都社会福祉協議会 区市町村社協部会

introduction

ーこのワーキングのねらいー

現在、区市町村社協を取り巻く環境はきびしく、さまざまな面から経営や事業運営の見直しが求められています。多くの社協では、人員の削減や非正規化をすすめ、あるいは委託事業等からの撤退を余儀なくされています。

こうした中で、ともすると、社協の役職員は過剰に防衛的になったり、本来の役割やあるべき姿を見失って場当たりの対応に追われるということが起こりがちです。

そして何よりも恐れなければならないのは、職場を取り巻く閉塞感の中で、地域福祉や住民主体という高い理想に向かうための志とモチベーションをいつしかすり減らしてしまうことでしょう。

一方、昨年3月に国から出された「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」の報告をひくまでもなく、住民主体による地域福祉活動を活性化し、地域社会を再生することの重要性が今ほど強く意識されていることはかつてなかったといえます。

本来このことは、「住民主体による福祉コミュニティづくり」を基本的な使命とする社協にとって、試練である以上に絶好の好機であるはずで、このチャンスを活かし、社協に対する市民からの期待に確かに応えるために今私たちはどのように行動したらよいのでしょうか。

本ワーキングでは、こうした問題意識のもとに、社協にとっての原点である会員・会費制度のあり方をあらためて検討し、そこから今後の社協の進むべき道を皆さんと一緒に考えたいと思います。